

移行支援の事例

～その一人の先にある社会課題を地域で解決する～

自己紹介

奥谷 祐樹

- 株式会社商業藝術
- 株式会社日本コンサルタントグループ
- アデコ株式会社
- 株式会社LITALICO
- unselfish(平成30年6月事業開始)



『多様な個性が輝く社会を実現する』

多様な個性を
グラデーションで表現

多様な人材と企業を結ぶ
笑顔になるストーリー



事業内容と実績

企業支援
(Company support)

若者支援
(Recruit support)

休職・復職支援
(Re-work support)

- ① 製造業(従業員数90名)
 - ・ダイバーシティー採用・定着支援コンサルテーション
 - ・多様な人材が働きやすい人事制度設計・構築
- ② IT企業(従業員数400名)
 - ・社員の障害理解促進と対応の標準化
 - ・定着のためのカウンセリング
- ③ 医療機器メーカー(従業員数1000名)
 - ・広島、島根、東京の障がい者採用体制構築・定着支援体制構築
- ④ 心療内科(1日あたり200名の患者さんが来院)
 - ・休職者復職支援と定着支援サービスの仕組みづくり
- ⑤ 情報系学部がある大学
 - ・障害福祉サービスに該当しない学生の就労支援
- ⑥ 転職支援
 - ・大学卒業後、早期離職された重度身体障害の方の転職支援
- ⑦ 個別定着支援
 - ・障害福祉サービスに該当しない就労して4年経過された方の定着支援

就労移行支援サービスにある『課題』

- 基本、1人2年間しか使えないサービス
- 医療に繋がっていない、診断がない
- 卒業年度であって単位取得できている学生のみ
- 学業と両立が難しい
- アルバイトをしていると利用できない

サービスに課題があることで、 学生が困っている

- いじめを背景に15歳からひきこもりをしていた
- これではいけないと高卒認定を取りプログラミングが学べる大学へ通う
- 年齢22歳 卒業する時には26歳
- 年齢とひきこもりの経験から自己肯定感が低い
- 年齢から就職に焦りと不安がある
- アルバイトを勧められるが、予期不安からアルバイトを選択出来ない
- 鬱のような症状があると認識はあるが医療に抵抗がある
- 地域にある相談機関に相談に行くも、医療に繋がっていないからなどと言われ、相談に乗ってもらえない、サービスがない・受けられない

本人が抱える困り感、
どのような就労支援をしますか？



本人が望んでいる状態とはなにか。

【本人が望んでいる状態】

- 学校で学んだことが実務で活かせるのか試したい
- 学業と両立した働ける場所を見つけたい
- 学校があるときは、週1日3時間、長期休暇のときは長時間働きたい

支援者の価値観で限界を決めない

機密・個人情報の観点からアルバイトでSE・プログラミングは難しい

週に1度働ける環境はない

学業があるから働くのは難しい

年齢は気にしなくて良い、大丈夫

柔軟に働き方を変更できる会社はない

社会課題を背景に企業が抱える『困り感』

- 少子高齢化を背景に人の採用に苦戦をしている
- 採用が出来ないことで組織内で高齢化が進んでいる
- 採用が出来ないことで外部に委託しており、外注費が増えている

企業が抱える困り感、
どのように支援をしますか？



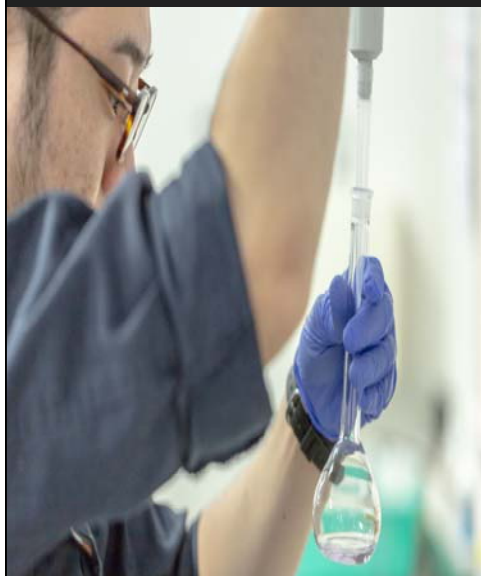
企業が望んでいる状態とはなにか。

【企業が望んでいる状態】

- 本人の意向を尊重した働き方を検討したい
- 『適材適所』の考えで『特性や特徴』を活かした働き方を検討したい

社会の側にある課題

学生の困り感×企業の困り感 = 就労



就労支援で大切なこと

支援者の価値観で『難しい』『無理』『駄目』

ではなく、学生の思いや背景を共感・理解する。

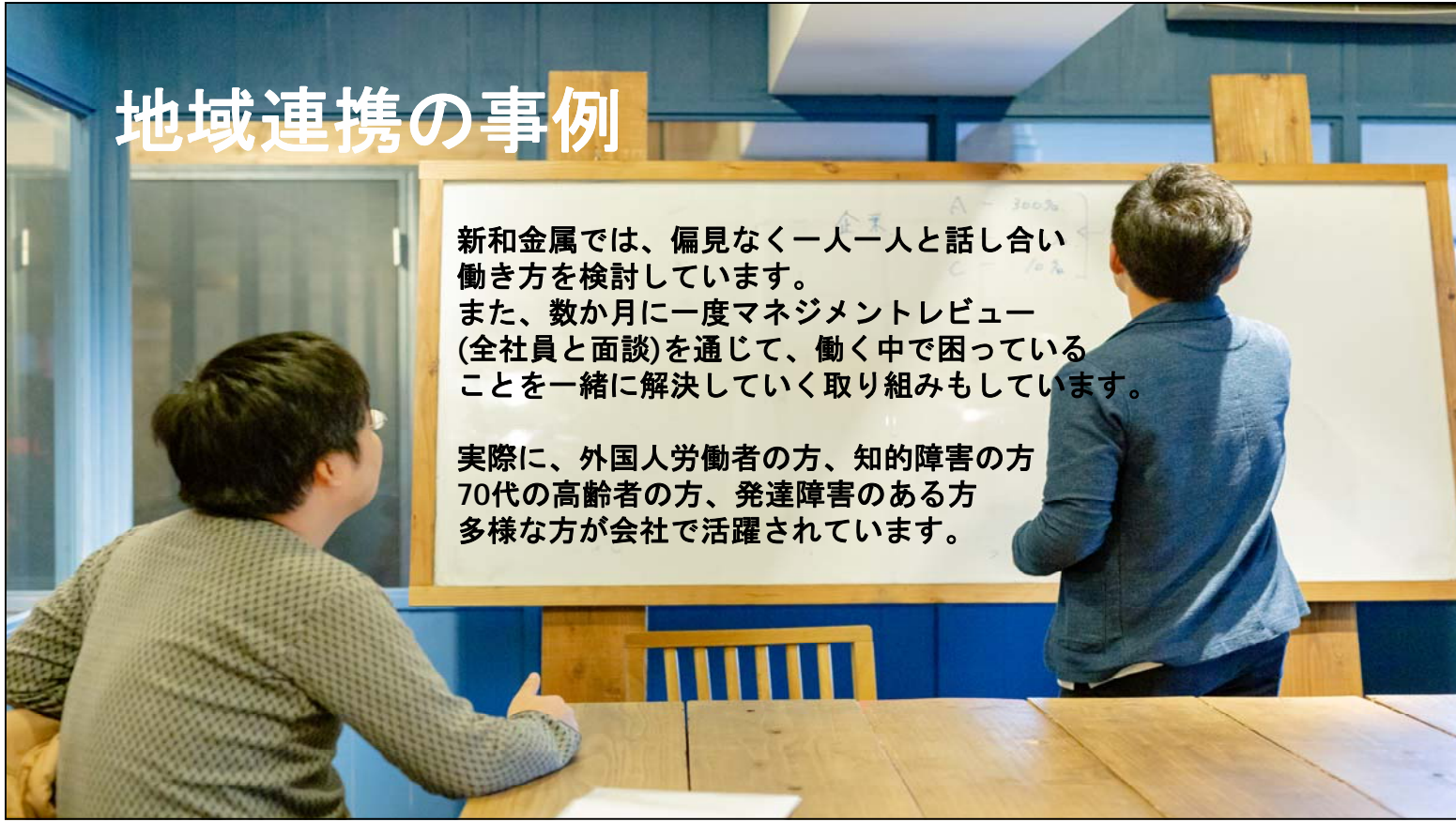
地域連携で大切なこと

学生と地域に働きかけるのが「就労支援」

学生にのみ変容を求める支援から、

「多様性」を受け止める環境（企業）に
『働きかける支援』

地域連携の事例



新和金属では、偏見なく一人一人と話し合い働き方を検討しています。
また、数か月に一度マネジメントレビュー（全社員と面談）を通じて、働く中で困っていることを一緒に解決していく取り組みもしています。

実際に、外国人労働者の方、知的障害の方、70代の高齢者の方、発達障害のある方、多様な方が会社で活躍されています。

就職者の声

周りが早く内定を貰う人がある中で周りの人と比べて不安だった。

在学中は、職場を実際に体験して決めることを知らなかった。

大学卒業後、ひとりの就職活動は、先が見えず不安だった。

一人で悩まず、安心して就職が出来た。

自分の出来ること、必要な配慮を検討し、

長く働ける環境を見つけることが出来た。

定年まで働きたい。

